

(社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第 84 回 レベル 1PRA 分科会 議事録

1. 日時 第 84 回 : 2018 年 3 月 19 日 (月) 13:30~16:40

2. 場所 電力中央研究所大手町地区 711 会議室

3. 出席者

(出席委員) 高田主査, 桐本副主査, 橋本幹事, 石田, 岩谷, 喜多, 小谷, 佐藤 (輝),
黒岩, 小森, 谷口 (11 名)

(常時参加者) 丹野, 野村, 友澤 (3 名)

(敬称略)

4. 配布資料

P4SC-84-1 第 83 回 L1PRA 分科会議事録 (案)

P4SC-84-2 停止時 PRA 標準改定案のコメント対応について

P4SC-84-3-1 内的事象 L1PRA 標準 議論検討用

P4SC-84-3-2 適用可能な手順及び実施例 議論検討用

P4SC-84-3-3 内的事象 L1PRA 標準 英文版 (Draft for Review)

5. 議事内容

(1) 出席者/資料確認

委員 11 名が出席しており, 分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。また, 配布された資料が確認された。

(2) 第 83 回議事録の確認

資料 P4SC-84-1 を用いて第 83 回分科会の議事録を確認した。コメントがあれば連絡いただくこととし, 特になければこのまま正式版とすることとなった。

(3) 停止時 PRA 標準の改定状況

資料 P4SC-84-2 により, 停止時 PRA 標準の改定状況について説明があり, 標準委員会決議により 1 ヶ月間の公衆審査に入ったことが報告された。また, 今後の分科会検討について確認した。

(4) L1PRA 標準統合性能化検討

資料 P4SC-84-3-1 から資料 P4SC-84-3-3 により, L1PRA 標準統合性能化の箇条構成について

て検討を行なった。主な議論は以下のとおり。

・全般

- －標準の目的について議論し、リスク情報の活用のための PRA の技術要件を定めることを主たる目的とすることで仮決定した。今後に関連する検討なども予想されるため、このような議論とも合わせて検討を継続する。また、目的と適用範囲を一つの箇条とすることも考えられるため、箇条構成についても今後の検討により対応していく。
- －PRA での終状態となるプラント状態の定義について議論し、重大事故対策の有効性評価で検討されている内容を踏まえ、高温停止・冷温停止が含まれる原子炉の安定停止状態を採用することとした。合わせて、安定停止状態の定義について標準内で明確にする。
- －各箇条第一項に記載している個別の目的と実施項目については、各所分散して記載されている理由等に関する部分も集約し、目的について一括して最初に規定、次いで実施項目を箇条書きにする構成で統一する。
- －箇条内で使用されている「手法」などの用語は、個別に適用の妥当性を確認していくと共に、他の用語・表現とすることも検討していく。
- －附属書と解説の仕分けなどの標準構成のあり方について必要応じ今後も検討する。

・箇条 5 レベル 1PRA の品質確保

- －他の箇条と同様に、箇条 5 においても箇条個別の目的を最初に規定する。
- －個別の要件の最初は「プラント状態の調査」とし、各箇条の並びを調整する。
- －文書化において、品質保証活動・専門家判断・ピアレビューに関する文書化は、目的・範囲・結果等の文書化と合わせ、一つの箇条として構成を調整する。
- －品質確保については、各標準共通の事項となるため、今後に関連する検討なども予想されるため、このような議論とも合わせて検討を継続する。

・箇条 6 プラント状態 (POS) の分類及び設定

- －POS の分類において、運転時・停止時をまず分類し次いでさらに詳細な分類が必要となる停止時について分類する流れで規定振りを調整する。停止時の分類で考慮する項目の表では、表中の「ため」を削除する。
- －米国 ASME/ANS 標準との比較において、POS のグループ化と妥当性確認が欠落しているため、新規の規定を検討する。
- －米国 ASME/ANS 標準との比較において、POS のスクリーニングと停止時作業における将来計画の検証については、国内では必ずしも即さないことも考えられることから、規定としての位置付けを検討する。
- －米国 ASME/ANS 標準において、検討の程度を規定している部分については、本体規定との区分を考慮し附属書・技術レポートなどへの反映も検討する。
- －プリ POS とタイムウィンドウを規定している部分は具体的な手法に該当するため、本体規定からは削除し、関連する附属書の参照のみとする。

・その他

ー共通原因故障における CCCG の考え方を記載する本体附属書として，適用可能な手順及び実施例の適用例を移設することとし，今後の個別検討により適切性をさらに確認していく。

(5) スケジュール，その他

次回分科会は 5 月 11 日 PM での予定とする。

以上